

「第9回キャンパスベンチャーグランプリ中国」表彰式を開催しました！



平成 23 年 1 月 27 日(木), リーガロイヤルホテル広島で, 第 9 回キャンパスベンチャーグランプリ中国の表彰式を開催しました。

キャンパスベンチャーグランプリ(以下, CVG)は, 学生のビジネスに対する意識を高め, 起業家精神を鼓舞し, 創造性・チャレンジ精神に富んだ人材を育成することを目的として, ビジネスプランや事業アイデアを募集・表彰するもので, 中国地域産学官コラボレーション会議(中国経済連合会), 日刊工業新聞社などで構成する実行委員会(福田実行委員長=中国経済連合会会長)が運営しています。

平成 14 年度以来 9 回目となる今回の CVG 中国では, 16 の大学・高専から 87 件の応募があり, その中から書類審査・ヒアリング審査(水野審査委員長=広島県産業科学技術研究所所長)を経て, 「最優秀賞」など 14 件のプラン(※)を表彰しました。

(※)各プランの詳細な内容につきましては, 1 月 17 日付の [プレスリリース](#) をご参照下さい。

第 9 回 CVG 中国表彰式 (14:00~15:00)

当日は, 晴天ではあるものの厳しい寒さの中, 各プランを提案した学生さんとその関係者の皆さん, 実行委員会・審査委員会のメンバーを含む 200 名を超える方々にご参集いただきました。表彰式は, 福田実行委員長と日刊工業新聞社の井水社長の主催者挨拶に始まり, 審査委員の紹介に続いて, 14 件のプラン(テクノロジー部門最優秀賞:1 件, ビジネス部門最優秀賞:1 件, 優秀賞:3 件, 特別賞:2 件, 奨励賞:3 件, 佳作:4 件)の提案者に, それぞれ賞状と副賞が授与されました。



福田会長(主催者挨拶)



井水社長(主催者挨拶)

続いて、水野審査委員長の講評・講話がありました。



水野先生には、第1回目から毎年このCVG中国の審査委員長を務めていただいておりますが、「年を追うごとにレベルアップしており、審査員の頭を悩ますプランが多かった。特に、プレゼンテーションが上手になった。」と感想を述べられました。そして、小さなアイデアから出発したビジネスが今や世界の大企業に発展した例として、松下幸之助氏の「二股ソケット」(⇒松下電器・現パナソニック)や、石橋正二郎氏の「地下足袋(足袋の裏面にゴムを貼付)」(⇒ブリヂストン)などを挙げられ、「発想はたいしたものではないが、それをやり抜いたことが素晴らしい。松下さんは、晩年、『ここまで会社を大きくできるとは全く思っていなかった。自分の頭を自分で撫でてやりたい。』とおっしゃったそうだが、今回受賞した皆さんも、人生を終える時にこんな言葉をかけられるように頑張ってください。そのきっかけは既に持っているはずだ。」と激励されました。

.....

表彰式の最後には、各部門最優秀賞の2件についてプレゼンテーションが行われました。以下のその内容を簡単にご紹介します。

<テクノロジー部門最優秀賞>

「イムノクロマト法による呼気凝縮液中の好中球マーカーの検出」

ひょうだ ともこ
(提案者) 岡山大学大学院 兵田 朋子さん

講演資料①

兵田さんは、気管支喘息(ぜんそく)の重症度を、イムノクロマト法により簡便に判定できる検査法を提案し、ビジネスプランとして提案されました。イムノクロマト法そのものは、従来から尿、妊娠、インフルエンザの検査などに広く利用されていますが、これを喘息の検査に適用し、呼気を吹きかけて色調の変化を判別するだけの、使い捨て可能な簡易な検査キットを開発した点に高い新規性があると評価されました。この検査キットが実用化されれば、患者さん自らが重症度をどこでも簡単に判定でき、治療方針や薬剤の選択などに利用できるということです。



受賞後のスピーチで、兵田さんは、「研究を始めて日が浅く、日々失敗の繰り返しで、支えてくれる周りの皆さんへの感謝の気持ちで一杯です。今日から気持ちをあらたにし、一歩ずつ前に進んでいきたいです。」と感謝の思いと今後の抱負を述べられました。

<ビジネス部門最優秀賞>

「音楽作成リハビリテーション支援システム」

ひざき あやか おおもり ひろし どい さとし
(提案者) 広島商船高等専門学校 檜崎 綾香さん 大森 寛士さん 土肥 敏志さん

講演資料②

大崎上島町は、高齢者の比率が約50%、全国平均(30%)を大きく上回るペースで高齢化が進展しており、そこに暮らす檜崎さん達は、何とかしてこの島の問題を解決したい、それは、将来の日本全国の問題を解決することにもつながるはずだ、という強い思いから、高齢者の方に優しいリハビリテーション支援システムを提案し、ビジネスプランとして提案されました。従来リハビリは肉体的にはもちろん、精神的にもつらいものですが、音楽とお絵描きという娯楽の要素を取り入れることで、高齢者の方が楽しく簡単に取り組むことができ、また他人とのコミュニケーションのきっかけにもなるシステムで、現在、島内の施設で実証実験を行っているということです。



(左から、大森さん、檜崎さん、土肥さん)

受賞後のスピーチでは、3人を代表して檜崎さんから、「高齢者の多い島でのリハビリテーションに少しでも役立てばとの思いから取り組み始めたシステムですが、このような形に残るものとなってうれしいです。ありがとうございました。」と喜びと感謝の思いが述べられました。

.....

記念講演会（15:00～16:20）

「パナソニックの経営革新とリーダーシップ」

（講師）パナソニック株式会社経理大学 学長 川上 徹也氏



表彰式に続いて、パナソニック(株)経理大学の川上学長をお招きして記念講演が行われました。

川上学長は、失われた10年(90年代)と2001年のITバブル崩壊で松下グループが大幅な赤字に陥った際、CFOとして中村社長と二人三脚で(ご本人は講演の中で「氷河期も長くそんなものじゃなかった」と笑って否定されていましたが)大改革を断行し、奇跡的なV字回復を成し遂げた方です。講演では、当時の改革の様子を振り返りながら、改革に必要なことや、リーダーシップのあり方などについてお話いただきました。

講演の中でまず印象に残っているのは、衰退する企業の特徴として、①傲慢(製品は良い、買わない消費者がおかしい)、②自己満足(我々はトップメーカー)、③内部議論(結論なき会議・プロジェクトの増殖)、④摩擦を恐れる(改革の行動を起こさない)、を挙げられたことです。当時の松下は、この全てがあてはまっていたようですが、全てとは言わないまでも、会場の中には身に覚えのある方もおられたのではないのでしょうか。

このような状況で行われた改革は、一言でいうと『破壊と創造』(経営理念以外は聖域を設けない、全て破壊する)で、国内家電の流通改革、早期退職優遇制度の導入、事業部制の解体などの改革を次々とスピーディに行い、その間、中村社長は一切妥協せず、また軸も全くぶれなかったそうです。この大改革が成功したポイントとして、ユニバーサルデザイン・環境配慮型の商品(ななめドラム洗濯機、省エネ・ノンフロン冷蔵庫等)の開発に見られるような卓越した技術力に加え、改革の重要な点は、「本質的なところから手を付け、一気呵成で根こそぎやること」、そして『『破壊』に適した人材と『創造』に適した人材を見極め、その人に任せること』であると述べられたのも印象的でした。

講演の最後には、会社生活の中で川上学長が大事にされていることとして、①難しいことを易しく(人に伝えて納得してもらわないといけない)、②本質的・中長期的・多面的、③事前の一策は事後の百策に勝る、④My Story(自分の言葉で伝える)の4点をご紹介いただきました。また、毎日少しずつでもいいから自分自身を振り返る時間を持つこと(例:日記をつけるなど)をすすめられました。そして、ご自身の信条として、①Clean Hands(言行一致)、②Cool Head(平常心)、③Warm Heart(相手の立場を理解する)を挙げ、講演を終えられました。

川上学長のご講演をお聞きするのは初めてでしたが、終始優しさあふれる穏やかな口調で、経験と実績に裏付けられた説得力のあるお話には思わずうなずいてしまうことも多く、非常に有意義な講演会となりました。それにしても、あれだけ元上司への愚痴(?)が飛び出す講演も珍しく、よほどつらい時期をお過ごしになったのかと余計な心配をしてしまいましたが、氷河期を乗り越えてからは、プライベートでの悩みまでメールで相談されるようになったとのことで、実際には固い絆で結ばれており、だからこそあれだけの大改革を成し遂げられたと拝察いたしました。

第9回 CVG 中国受賞祝賀会 & 2011年中国四国産業人クラブ春の交流会（16:30～18:00）

記念講演会の後は、隣のホールに会場を移して、「第9回 CVG 中国受賞祝賀会 & 2011年中国四国産業人クラブ春の交流会」が盛大に行われました。

祝賀・交流会は、中国四国産業人クラブ会長を代行して広島ガスの田村社長の挨拶で始まり、CVG 中国各賞を受賞した学生さん達も加わり、いつになく(?)華やかな雰囲気、会場の至る所で歓談や活発な情報交換が行われていました。コラボレーションセンターとしましては、この交流が学生さんと関連企業・支援機関等との出会い良いきっかけとなり、ビジネスプランの具体的な実現(ベンチャー企業の設立、新産業の創出)につながることを期待しております。

